



小田原男声合唱团

第26回定期演奏会



1997.10.25(土)

16:30開演

小田原市民会館大ホール

主催 小田原男声合唱团
後援 小田原市教育委員会



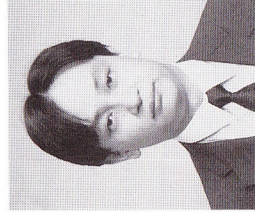
外山 浩爾



日本楽壇の功労者外山国彦氏を父に、指揮者外山雄三氏を兄に持つ音楽一門の出身、幼年の頃から父国彦氏や有馬大五郎、岡田九郎両氏により本格的な音楽教育を受けた。東京芸術大学声楽科に入学、柴田睦陸、ウーフアアーペニヒ、リア・フォン・ヘッツサート諸氏に師事し、卒業後直ちに同大学及び同付属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団の活動に参画し、「カルメン」をはじめ多くのオペラに出演した。

現在、鳴門教育大学において後進の指導に当たると共に、全日本合唱連盟の活動推進に力を注ぎ、92年には文部大臣より教育功労表彰を受けた。昨年度より、小田原男声合唱団の音楽監督、常任指揮者に就任、当団の音楽性向上に情熱を傾けている。

桑原 正人



1969年千葉に生まれる。東京芸術大学音楽部指揮科において、指揮を遠藤雅古、フランシス・トラヴィリス両氏に師事した。現在、NYK交響楽団などアマチュアオーケストラを中心に活動している。昨年度から小田原男声合唱団指揮者として、その清新で洗練とした指導は団員の深い共感を得ている。

大背戸 亜紀子



桐朋学園大学ディプロマコース修了。92年春東京で開催されたフェデリコ・モンポウコンクールにおいて、第一位、特に設けられたカルメン・ブラーボ（フェデリコ・モンポウ未亡人）賞を受賞した。94年以降バルセロナのマーシヤル音楽院に留学、故イーゴリ・マルケヴィッチ夫人、カルメン・ブラーボ女史、アリシア・デ・ラローチャ女史らに師事。現在、スペイン歌曲の伴奏、室内楽で活躍中。

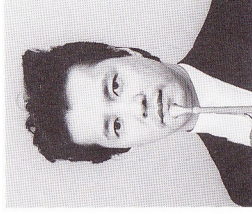
東京ホルンブレイヤーーズ:

樋口 哲生



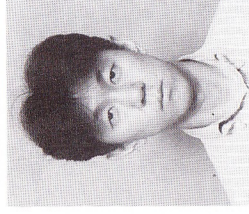
京都市立堀川高校音楽コース卒業。逢坂知訓、黒沢勝義の両氏に師事。72年読売日本交響楽団に入団、74年ベルリン芸術大学に入学、ゲルト・ザイフェルト氏に師事、76年同大学卒業後、読売日本交響楽団に復帰、ソロ奏者を勤める。84年ロンドンに留学、ジュリアン・ペーカー氏に師事、88年よりNHK交響楽団に首席奏者として入団。東京ホルンクアルテット、一つの笛集団、室内楽奏者、ソリストとして活躍している。昭和音楽大学、尚美学園講師。

伊藤 隆司



75年桐朋音楽大学入学、82年旧西ドイツ国立ベルリン音楽大学卒業。安原正幸、北爪利世、相堅方正、バリー・タックウェル、ゲルト・ザイフェルトの各氏に師事。卒業後、NHK FM午後のリサイタルに出演、東京ブラッサンサンブルのメンバーとして各地で公演。85年より95年まで東京シティアフィルハーモニー管弦楽団団員。現在独奏者、室内楽奏者としてモーツァルトやリヒャルトシュトラウス等の協奏曲などを多数演奏している。

小林 祐治



94年日本大学芸術学部卒業。第十回ヤマハ金管新人演奏会出演。96年桐朋学園大学研究科修了。95年より桐朋オーケストラアカデミーに在籍。現在、桐朋オーケストラアカデミー演奏員。ホルンを黒澤勝義、山岸博、伊藤隆司各氏に師事。

宮本 高德



82年よりホルンを始める。これまでに岡本充代、安原正幸、守山光三の各氏に師事。95年、東京音楽大学卒業。現在桐朋音楽大学デイプロマコース3年次在学中、山岸博氏に師事。

プログラム

1 フランスの詩により男声合唱曲集「月下の一群②」

堀口大学 訳詩、南 弘明 作曲

指揮 桑原正人、ピアノ、大背戸亜紀子

- I 雨の巷に
ポール・ヴェルレーヌ詩
- II あの娘
ポール・フォーレル詩
- III 夜曲
アドルフ・レットテ詩
- IV 十月の薔薇
ルミ・ド・グールモン詩
- V 冬
モーリス・ヴラマンク詩

2 「ロバート ショウ ホームソング シリーズ」から

指揮 外山浩爾

- What Shall We Do with the Drunken Sailor (Sea Shanty) Alice Parker, Robert Show 編曲
- Love's Old Sweet Song James Lyman Mollof 作曲 Ralph Hunter, Alice Parker, Robert Show 編曲
- Seeing Nelly Home J. Fletcher 作曲 Alice Parker, Robert Show 編曲
- Gentle Lena Clare Stephen Foster 作曲 Alice Parker, Robert Show 編曲
- Wait for the Wagon R. Bishop Buckley 作曲 Ralph Hunter, Robert Show 編曲
- Good Night, Ladies (Traditional) Ralph Hunter, Robert Show 編曲

3 男声合唱組曲「柳河風俗詩・第二」

指揮 外山浩爾

北原白秋 作詩、多田武彦 作曲

- I 水路
- II 梨
- III 立秋
- IV あひびき
- V 散歩
- VI みなし児

4 「F. Schubert 男声合唱曲集」から

指揮 桑原正人、ピアノ、大背戸亜紀子、ホルン 東京ホルンブレイヤーズ

- Der Gondelfahrer D.809 ゴンドラを漕ぐ人
- Die Nacht D.983 夜
- Nachtgesang im Walde D.913 森の夜の歌

だましん

街のお役に、くらしの夢に



水田原第一信用組合

のれんと味
網元 多る海
直営 DARUMA

本店 小田原市本町2丁目 TEL0465(22)4128(代)
城址公園より徒歩5分・駐車場完備
市民会館食堂 TEL0465(23)3827

曲目解説

フランスの詩による男声合唱曲集

月下の一群 ②

合唱愛好者にとっては、詩人堀口大學の名は「月光とピエロ」の作者として、つとに著名だが、フランス近・現代詩の詞華集「月下の一群」の訳者としての業績も決してそれに劣るものではない。大正14年(1925)に刊行された『月下の一群』に収められた作品は、フランスの詩人66人の340編、象徴主義(サンボリスム)の詩から新精神の詩(レスプリ・ヌーヴォー)まで、半世紀に亘るフランス近代詩の集大成と言える。大部分が平易、柔軟な口語訳で、大正の詩から昭和の詩への展開を導く画期的な詩集であった。

名訳と言われた『海潮音』のヴェルレーヌの「秋の歌」の改訳、レオ・フェレのジャンソンで広く知られているアポリネールの「ミラポネー橋」、珠玉の掌編コクトーの「耳」(「私の耳は目のから 海の響きをなつかしむ」)、人生の真実を籠めたマリイ・ローランサンの「沈静剤」(……死んだ女よりもっと哀れなのは 忘れられた女です)など、フランス特有の機知あふれる詩を見事に日本語に移し変えた作品が多く、発表以来多くの人々に愛され、口ずさまれてきた。堀口大學自身の言葉を借りれば、「秩序あるフランス近代詩の詞華集(アンソロジイ)を作り上げようなどという野心」も持たず、「何のあてもなく、ただ訳してこれを国語に移しかえる快楽の故にのみなされたもの」のうち、自らの「詩眼の評価で選択して作られた」訳詩集ということになる。

しかし、これほどの佳作でありながら、合唱作品として取り上げられたものは意外に少なく、南弘明が昭和52年(1977)に広島市の崇徳学園高校グリーククラブの委嘱による「フランスの詩による男声合唱曲集『月下の一群』」が最初と言われている。この作品は多くの合唱団に好評をもって迎えられる、昭和59年(1984)には第2集が同じく崇徳学園高校グリーククラブによって初演され、今年(1997)第3集が明大グリーククラブによって初演された。

I 雨の巷に

「秋の歌」と並んであまりにも有名な、ポール・ヴェルレーヌ(1849-1896)の詩、第4詩集『言葉のない恋歌』に収められた「忘れられた小曲」9編の第3番にあたる。アルテュール・ランポーとの同棲生活のとりとめない倦怠をロンドンの宿に降る霖雨に交錯させ、身にしみる故なき嘆きを歌っている。

II あの花

「輪踊り」や「空の色さへ陽気です 時は楽しい五月です」のような、明るく、陽気な民謡風の詩で知られるポール・フォーレル(1872-1960)の、若くして逝った娘を悼むうた。中間部の軽快な行進曲ふうのメロディにも、北原白秋の「あの子の子」(『日本の笛』)に通うさりげない悲しみがこもる。

III 夜曲

月の光の下、しじまの中にひそやかに語られる愛の言葉。作者アドルフ・レッテ(1863-1930)は、耽美的な初期の作風から、自然への賛歌、敬虔な宗教詩へと移って行ったが、感傷的な表現は一貫して変わっていない。

IV 十月の薔薇

ルミ・ド・グウルモン(1858-1915)評論家、小説家として著名だが、詩人としても知性と肉感の微妙に交錯する音豊かな詩を多く書いている。シモンという田舎の娘に寄せてうたったいくつかの詩が広く知られている。

V 冬

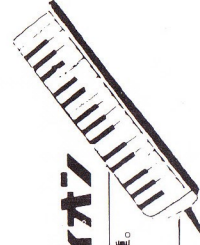
フォーヴィズムの先駆的画家、ヴラマンク(1876-1958)の詩。「マリイ・ロオランサンとモオリス・ヴラマンク、この二画人がいい詩人なのはもっともなことだ。(中略)後者の率直な投げやりな美、ペンもブラッシュでも、結局は同じものと見える(佐藤春夫)」というように、平易な言葉のうちに年老いたものの心を率直に描き出したこの詩は決して他人事とは思えない。

はじめて出逢う・音楽のよろこび

20
年の

ススキメロディオン

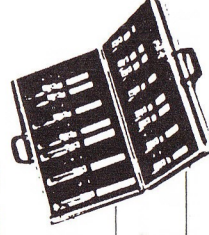
ソプラノからバスまで13機種。
演奏性・用途に合わせた
メロディオン。



20
年の
主役

トーン・チャイム

創造するよろこびが、音楽のよろこび。
トーン・チャイム。



株式会社 鈴木楽器製作所

〒430 浜松市領家2-25-11 TEL. <053>463-6601

鈴木楽器販売株式会社

東京支店: 東京都品川区西五反田7-22-17 TEL. <03>3494-3937

「ロバート ショウ ホームソング シリーズ」

デ・ポーア、ノーマン・ルーボフ、ロジェ・ワグナー、ミッチ・ミラー、アカデミー・ロシア、ドン・コサック……、LPレコードの時代から親しんで来た合唱団は数多いが、もっとも強烈な印象を与えたのがロバート・ショウ合唱団であることは異論のないところであろう。古くから親しまれてきたハーモニーをつけた愛唱歌集の風の歌曲にしゃれたハーモニーをつけた愛唱歌集のたぐいは断然他の追随を許さない、ロバート・ショウの独壇場であった。

このステージには、そうした言わばロバート・ショウの定番ものが登場する。シー・シャンティ（海の男の歌）や、モロイやフォスターの親しみ深い歌曲、ここではフォークダンスでお馴染みの曲に至るまで、黄昏のほのかな光の輝きにも似て、聞くものを懐かしい思い出の世界にいざなってくれる。

『柳河風俗詩・第二』

柳の下に泥鰌はいない、二番煎じは味が落ちる。ことはど左様に、一つ当たったからそれにあやかっただとどという安易な企画は成功したためしがない。「男はつらいよ」があれほど人々に愛されたのにはそれなりの理由があった。多田武彦の数多くの男声合唱組曲が常に男声合唱団の主要なレパートリーであり続け、さらに『柳河風俗詩・第二』が作曲されるに至ったのも、作曲者の、詩の選択眼の確かさと、合唱を知り尽くした豊かな音楽性が広く合唱人の共感と支持を得ていたことを雄弁に物語っている。

『柳河風俗詩・第二』は『柳河風俗詩』と同様、白秋の詩集『思い出』に拠っている。ただし第一作の『柳河風俗詩』が詩すべて『思い出』の「柳河風俗詩」の章から採ったのに対して、『第二』の6編の詩は、他の章からも採られている。その意味では、『柳河風俗詩・第二』は第一作よりも広義の“柳河の風俗”をうたった『思い出』の詩による男声合唱組曲であり、

故郷に寄せる作者白秋の思いに示した、作曲者の深い共感の現れと見ることが出来る。

I 水路

蛍の飛ぶ水郷柳河の水路。芝居戻りの家族を乗せた船が行く。水路ぞいの白壁の蔵のおぼろな明るさ、隣が燃えるような恐れ、子供ごころに感じた夜更けのまじの幻覚。

II 梨

柳河の東五里、筑後境のもの静かな山中の町、南関。その近郊外目の山あいに母しけの生家、造り酒屋の石井家がある。幼い白秋は、「私の第二の故郷」と呼んでしばしば母の里を訪れた。ここに歌われているのはそんなある夏の一日の思い出である。

III 立秋

木下空太郎、吉井勇、与謝野鉄幹、平野万里の4人とともに、柳河を振出しに、切支丹遺跡順歴の九州一周旅行に出たのは1907年（明治40年）白秋22歳の夏であった。旅の終わりに再び柳河を訪れた一行は、ノスカイ屋が倒産した後、水屋が臨時に営業していた懐月楼に上がり、柳河の夜景を楽しんだ。古い懐月楼の建物は“柳河のたったひとつの公園”高畑公園に現存する。

IV あひびき

ぎやまんのびーどろにたとえられた幼き日の白秋の感じたおのきのき。黒土に生えた毒茸、きつねのろうそくの色の鮮やかさに、人目を忍ぶ逢引の後ろめたさと、開き直りにも似た心意気が見え隠れする。

V 散歩

小石川植物園の早春。歌集『桐の花』の「植物園小品」の一節がこの詩の原型であろうか。

薄黄水仙の朝葱の新芽…二寸ばかり萌えいづ。植物園事務室より出で来りし、若き紳士の紺の背広に赤皮



株式会社河合楽器製作所



ピアノ・電子ピアノ・電子オルガンのご用命は

KAWAI

卸 販売事業部
関東営業所

東京都渋谷区代々木 1-36-4

TEL 03-3379-9810

担当 大神・堂免

の靴のやはらかなる、薄黄水仙のほとりをぞゆく。
…人ごゑきこゆ、女のやさしき砂を踏む足音も…まだ
芽にいでぬ葉草のにはほひ痛み細のあなたに…

VI みなし児

赤い夕陽の照る坂の日暮れ。大道芸人の手に操られ
る紙人形に見入っている、身寄りもないみなし児の淋
しいまなざし。今にも絶え入りそうな、ラップ節の哀
調がいっそう寂さをそそる。みなし児に作者自身を
同化させてうたう白秋の感傷。

『F. Schubert 男声合唱曲集』から

シューベルトにはよい仲間があった。音楽家のみならず、画家・詩人・学者・政治家など広い範囲に及ぶメンバーは彼を囲んで音楽の夕べを催したり、郊外へ遠出をしたり、サロンでジェスチャア遊びに興じたりした。仲間の画家のお手のもののスケッチを見れば、ジェスチャアの題に「失楽園—アダムとイブの物語」が取り上げられたことも分かるし、他の作曲家に較べてシューベルトの肖像画が多く残っていることも納得がいく。

“シューベルト・フィアデー”と呼ばれたこの集まりは、記録の上では1821年が最初とされているが、シューベルトの音楽の紹介・普及に大きな力となった。このグループはまた、非常に高い音楽性を持っていたので、そこで演奏された曲は、現在我々が歌う場合決して生半可な取り組みでは手に負えないものすらある。

100曲ほどの彼の合唱曲のうち、約70曲が男声合唱であり、いずれも佳曲であることは言うまでもない。発足以来、小田原男声合唱団はシューベルトとメンデルスゾーンの男声合唱曲の全曲演奏という雄大な計画を立てたが、その実現にはさらに多く年月を必要とする。

♪ゴンドラを漕ぐ人

ヨローロッパアルプスの北に住む人々にとって、陽光

あふれる南欧、とくにイタリアの風物は限りない憧れを誘うものであった。アドリア海の真珠と呼ばれたヴェネツィアのそれもまた、ローマやナポリに劣らず、芸術家の琴線を揺するものであり、大運河を行き来するゴンドラの舟唄はさまざまな作品に登場する。ドイチュ番号 809のこの曲は、1824年3月頃の作とされ、作者はオーストリアの抒情詩人マイアア—ホ—ファー（1787—1836）という。船べりに寄せる波を思わせる軽やかなピアノののって美しい歌が流れて行く。中間部の、サン・マルコ寺院の鐘の音を模したピアノの響きも効果的であり、この曲によってシューベルトはピアノと合唱のコンチェルト風な合唱曲に新しい境地を開いたと言われている。

♪夜

ある程度の年齢より上のグリーマーメンならば、男声合唱の手ほどきはこの曲だったという人も多い。今ではあまり見られなくなったが、B5判空色表紙の“ポピュラー男声合唱曲集”はまさしく必携の楽譜であった。クルムマッヒャー（1796—1868）の詩によるこの曲も美しい旋律と和声が織りなす、日本人好みの静かな曲趣によって、広く歌われてきた。1823年、この曲を作った頃シューベルトは健康を損ねていたといわれているが、そうした折にも彼の歌ごころは固れることのない泉のように溢れ出していた。

♪森の夜の歌

ホルン四重奏を伴うこの曲は、オーストリアの作家ザイドル（1804—1875）の詩による。ザイドルは『白鳥の歌』の最後の曲「鳩のたより」の作者でもある。1827年4月の作で、ホルンの響きに乗って深い森の夜の静けさ、梢を渡る風のそよぎを伸びやかに歌いあげるこの歌は、「森こそ夜のふるさと」とここまを返す森に寄せる賛歌でもある。

小田原男声合唱団にとって、「森の夜の歌」には格別の思いがある。この曲を自由曲として第28回全日本合唱コンクール（岡山）で銅賞を受賞し、ライト・ブルー旋風を巻き起こしたのは、1973年11月のことであった。

居酒屋

スナック



金時

志澤デパート横

TEL 0465 23~0721
5471

登山ホテル前

TEL 0465 23—4234

1996~1998 小田男カレンダー (予定も含む)

年・月・日	演奏会名等	会場	指揮
96.11.2	土 25周年記念定期演奏会	小田原市民会館	石井 勲、外山浩爾、桑原正人
96.12.8	日 小田原と白秋	小田原市民会館	松本和夫
97.3.15	土 西湘音楽フェスティバル「ジュ・ア・ルト・イツシ」他	小田原市民会館	黒岩英臣
97.4.19	土 第2回神奈川県合唱協会演奏会	神奈川県立音楽堂	桑原正人
97.6.1	日 第46回湘南合唱祭	厚木文化会館	桑原正人
97.6.28	土 熱海市立初島中学校演奏会	初島中学校ホール	桑原正人
97.7.20	日 秦野市第14回合唱祭	秦野市民会館	桑原正人
97.9.13	土 強化練習	松田町民文化センター	外山浩爾、桑原正人
97.10.4	土 南足柄中学校演奏会	南足柄市民文化会館	桑原正人
97.10.12	日 第31回小田原市民合唱祭	小田原市民会館	桑原正人
97.10.25	土 第26回定期演奏会	小田原市民会館	外山浩爾、桑原正人
98.3.14	土 西湘音楽フェスティバル「メサイア」	小田原市民会館	栗田博文
98.5.31	日 第47回湘南合唱祭	ホームホール座間	桑原正人
98.10.18	日 第32回小田原市民合唱祭	小田原市民会館	桑原正人
98.11.28	土 第27回定期演奏会	小田原市民会館	外山浩爾、桑原正人

1996~1997 演奏曲目(愛唱歌は除く)

作曲者(編曲者)	曲目	作曲者(編曲者)	曲目
(遠藤雅夫)	ALL THAT JAZZ	三木たかし	地球の丸さを知る子供たち
多田武彦	柳河風俗詩	シューベルト	Nachgesang im Walde
石井 勲	枯木と太陽の歌	シューベルト	Die Nacht
近衛秀麿(林雄一郎)	ちんちんちどり	シューベルト	Der Gondelfahrer
山田耕祐(福永陽一郎)	あわて床屋	多田武彦	柳河風俗詩・第二
山田耕祐(福永陽一郎)	この道	南 弘明	月下の一群②
山田耕祐(福永陽一郎)	帰る帰ろ	(Robert Show)	What Shall We Do with the Drunken Sailor
山田耕祐(林雄一郎)	からたちの花	(Robert Show)	Love's Old Sweet Song
中山晋平(福永陽一郎)	砂山	(Robert Show)	Seeing Nelly Home
山田耕祐(福永陽一郎)	かやの木山	(Robert Show)	Gentle Lena Clare
ササノ 次(林雄一郎)	白鳥	(Robert Show)	Wait for the Wagon
シューベルト	ドイツミサ	(Robert Show)	Good Night, Ladies
シューベルト	「ザ・ムテ」より	(Robert Show)	Grand Father's Clock

美しい合唱は人生のロマン 小田男の「MEN」BERS

トップテノール

石山 誠 藤沢 加藤重高
 加藤治信 厚木 斎藤恵司
 西山廣木代 二宮 長谷川幸雄
 日置達男 小田原 松田直隆

大熊康弘 南足柄
 佐藤精孝 二宮 二宮
 高橋 潔 平塚 平塚
 福井 隆 二宮 二宮
 奎中 勉 秦野 秦野

バリトン

青野正純 小田原
 氏家慶明 山北
 岡部仁之助 秦野
 佐藤秀一 平塚
 山崎幸興 山北

大能康弘 南足柄
 佐藤精孝 二宮
 高橋 潔 平塚
 福井 隆 二宮
 奎中 勉 秦野

セカンドテノール

青野幸夫 秦野
 小野 豊 小田原
 杉本健二 南足柄
 濱本一秋 開成
 藤本慎治 秦野
 諸橋 学 秦野
 ベース

大能康弘 南足柄
 佐藤精孝 二宮
 高橋 潔 平塚
 福井 隆 二宮
 奎中 勉 秦野

赤川軍一 厚木
 日下部陽 平塚
 下沢 孝 小田原
 辻岡信浩 開成
 矢島隆司 小田原

石坂達也 南足柄
 木村敏明 寒川
 鈴木幸三 山北
 平山 諭 南足柄
 宝子山尚生 小田原
 山本信雄 南足柄

大能康弘 南足柄
 佐藤精孝 二宮
 高橋 潔 平塚
 福井 隆 二宮
 奎中 勉 秦野

小田原男声合唱団

音楽監督、常任指揮者 外山浩爾
 指揮者 桑原正人
 ピアノ 大背戸亜紀子
 団内指揮者 松本和夫

運営スタッフ
 団長 柏木秀茂
 団長代行 松本和夫
 技術部 小沢 一、中島弘光
 財政部 一色義信、奎中 勉
 団員部 福嶋 修、渡辺誠之
 渉外部 濱本一秋、長谷川幸雄
 情報部 日置達男、足利裕之
 事務局 井上忠彦
 会計監査 西山廣木代、田島達也

第26回定演スタッフ

実行委員長 斎藤恵司
 事務局 井上忠彦
 会計 加藤重喜
 演出 小沢 一
 舞台 杉本健二
 招待状 濱本一秋
 プログラム 足利裕之、日置達男
 打ち上げ 藤本慎治

アポロピアノ

東洋ピアノ製造株式会社

スタインウェイ&サンズ 新品、中古
 ベーゼンドルファー 新品、中古



井上楽器

小田原お銀運り

TEL 24-0515